



京都第一赤十字病院

日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world.Your move.

ホットラインのお知らせ

緊急の患者搬送依頼はホットラインにお電話ください。
担当の医師が直接対応いたします。

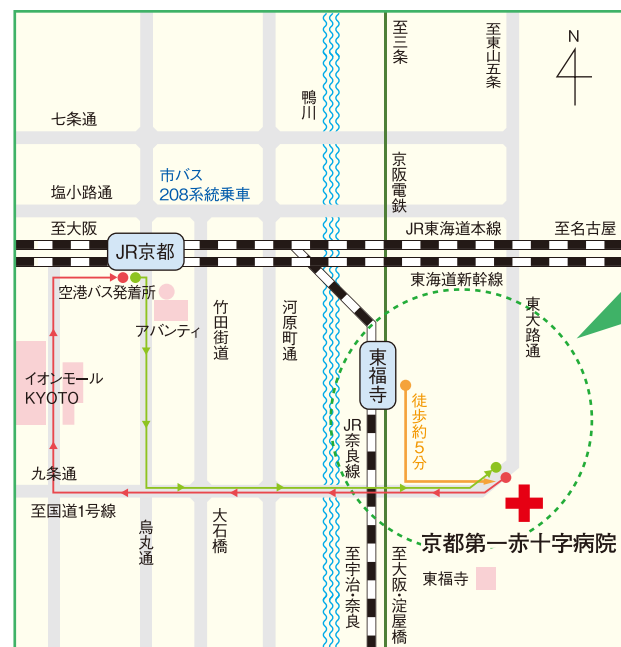
※必ず医師からご連絡ください。

- 脳神経・脳卒中科 080-8300-3009
- 心臓血管外科 090-7365-5211
- 循環器内科 090-5975-7754



Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内【JR京都駅八条口や病院(地下鉄九条駅経由)】

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45 次発 8:10、以降30分間隔で運行	9:00 以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行していません。

※12:30病院発の便は運行していません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土日祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。

Contents

就任のご挨拶	2,3
診療科のご紹介	4,5
専門看護師・認定看護師のお仕事紹介	6,7
インフォメーション	8

若葉の緑がすがすがしく感じられ、さわやかな風が吹き渡る季節となりました。平素は医療連携でご指導を賜り感謝申し上げます。

2020年2月にCOVID-19と命名された新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に蔓延しました。最初の肺炎報告から既に1年半が経過しましたが、今なお新たな感染の波が押し寄せています。このウイルスは医療のみならず政治・経済・外交・社会・教育・文化・スポーツ・娯楽等、ありとあらゆる領域の基盤と活動に大きな影響を及ぼしました。そして、各分野の弱点や改革の遅れなど、様々な課題が明らかとなりました。京都第一赤十字病院においても、

病院職員の孤発感染や予期せぬ入院患者の感染発覚、昨年末の院内クラスターを経験し、学び、同じことを繰り返さないよう不断的の努力を続けているところです。

コロナワクチン接種が始まりました。現状ではコミナティ(ファイザー社製)1択で供給量も限定されており、希望者全員が接種を済ませるのは大分先になるとのこと。変異株の出現や第4波・第5波の到来などWith Coronaが続きますが、医療を通じた社会貢献をしてゆきたいと思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

副院長・循環器内科部長

沢田 尚久



京都第一赤だより

き

ず

な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

春号
2021年5月発行
vol. 79

就任のご挨拶

greeting 01

第一消化器内科
部長

佐藤 秀樹

この度、第一消化器内科部長を拝命いたしました佐藤秀樹と申します。平成3年香川医科大学（現香川大学）を卒業し、京都府立医科大学第三内科に入局、その後、京都市立病院（研修医）、淀川キリスト教病院、京都府立医大、京都市立病院、東近江市立能登川病院を経て平成20年より当院で勤務しております。本年度4月から消化器内科は第一消化器内科（肝胆膵：佐藤秀樹）、第二消化器内科（消化管：奥山祐右）と二人部長体制となりました。各々専門分野のマネジメントを行いますので、スタッフは消化器疾患全般にわたり診療にあたりますので、これまで通り気軽にご紹介いただきますようお願い申し上げます。現在、コロナ禍で大変な状況ではありますが、感染対策を講じ、検査数を維持すべく消化器センタースタッフ一同、鋭意努力しております。また、当科は日頃から消化器外科、肝胆膵外科とも連携を密にとり、スピーディーなよりよい診療を目指しております。諸先輩の方々

Hideki Sato

が築いてこられた消化器センターの発展を志し、今後も皆様のお役に立てますよう精進いたす所存でございますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

【卒業年】
平成3年

【専門領域】
消化器一般、特に胆膵領域の疾患における診断、治療など

【認定医・専門等資格名】
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本消化器病学会指導医・専門医・近畿支部評議員
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・学術評議員
日本膵臓学会指導医
京都府立医科大学臨床教授

Yusuke Okuyama

greeting 02

第二消化器内科
部長

奥山 祐右

令和3年4月1日付けで第二消化器内科部長を拝命しました奥山祐右です。私は平成2年に京都府立医科大学を卒業し、JR西日本大阪鉄道病院内科にて初期研修医・修練医として勤務し、京都府立医科大学大学院を経て、平成9年より当院に在籍しております。この間、多くの諸先輩方のご指導のもと、消化管疾患の診断と治療について臨床経験を積ませていただきました。

消化管疾患を統括する立場として私からご挨拶申し上げますことは、以下の2点です。一つには、当科の上部消化管（食道、胃・十二指腸）診療、下部消化管（小腸、大腸）の診療には十分な知識と経験豊富な専門医が対応しており、その実力を遺憾なく発揮できるようなシステムや体制の整備を今後ますますめてまいります。もう一つは、救急疾患対応において実力を発揮する若手消化器内科医の育成にいままで以上に取り組み、臨床力を高めるお手伝いをしていきたいと考えております。当院の消化器内科診療がより一層安全かつ確実な医療になり

ますように第一消化器内科部長の佐藤秀樹先生と協力し、努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

【卒業年】
平成2年

【専門領域】
消化管疾患、特に大腸・小腸疾患、大腸腫瘍の内視鏡診断・治療、炎症性腸疾患の診断・治療、大腸癌の化学療法、カプセル内視鏡診断、過敏性腸疾患の診断・治療など

【認定医・専門等資格名】
日本内科学会 総合内科専門医、指導医
日本消化器病学会 専門医、指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医、指導医
日本がん治療認定医機構 認定医
日本肝臓学会 肝臓専門医
独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員（救済業 務関連）
京都市難病指定医

greeting 03

第二整形外科
副部長

森 弦

この度、第二整形外科副部長を拝命いたしました、森弦と申します。

2002年に滋賀医科大学を卒業しました。関連病院、大学勤務を経て、2014年9月より当院に赴任し、7年目を迎えております。

院長補佐・主任部長大澤透先生の元、第一・第二整形外科の計11名で、外来診療や病棟回診、手術、救急対応等の職務に当たっております。

私は、整形外科の中でも、脊椎脊髄外科を専門領域としております。腰部脊柱管狭窄症等の変性疾患、腰椎椎間板ヘルニアや脊椎転移、感染性脊椎炎等の治療に従事しております。また、当院は多くの救急疾患に対応しており、脊椎損傷や開放骨折等の緊急性の高い疾患については、臨時手術対応もしております。

現在、脊椎脊髄外科分野の治療は日進月歩で進んでおり、薬剤や手術手技に対しても、新知見

greeting 04

放射線診断科
部長

佐野 優子

令和3年4月1日付けで放射線診断科部長を拝命した佐野優子です。平成8年に山梨医科大学（現山梨大学医学部）を卒業後、聖路加国際病院で内科研修を受けたのち山梨大放射線科に入局し、山梨、静岡の関連病院（静岡県立総合病院、静岡県立こども病院など）に勤務。平成18年に京都府立医大放射線科に入局しました。府立医大附属病院に4年半、京都山城総合医療センターに9年の勤務を経て、令和元年に京都第一赤十字病院に赴任しました。これまで臨床、地域医療に根差したCT、MRI診断を行ってきました。当院では昨年3月には念願のフィリップス社製Ingenia Elition 3.0TのMRI、今年2月にはキヤノン社製320列Aquilion Oneの導入により京都市南部の中核病院に相応しい、最先端の画像を提供する設備が整ってきました。3.0T MRIではミラーを介してモニター画像を鑑賞できることで閉塞感が

greeting 05

放射線診断科
副部長

山田 香織

この度、放射線診断科副部長を拝命いたしました山田香織と申します。私は平成15年に京都府立医科大学を卒業後、同附属病院や大阪鉄道病院にて修練し、大学に戻って学位取得後、京都第二赤十字病院での勤務を経て令和2年、当院に着任いたしました。これまで全身の画像診断に従事してきましたが、中でも泌尿生殖器領域のCT、MRI診断を専門にしています。

病診連携ではご紹介いただいた患者様に放射線診断医が直接問診し、病状などから最適な撮影プロトコールを決定するとともに、より安心、安全に検査を受けていただけるように配慮しています。当院では昨年 Philips 社 製 MRI Ingenia Elition 3.0T、また今年キヤノン社製CT Aquilion ONE / PRISM Editionというフラッグシップ機を相次いで

Gen Mori

を導入しながら、日々精進しております。ただし、それらの治療を行うにはチーム医療が重要です。同僚を始め、他科の診療科の先生方、各種医療スタッフの方々による院内の協力体制は元より、地域の先生方との病院間連携もチーム医療の根幹のひとつです。今後も、より緊密で親密な連携により、微力ながら地域医療に貢献できるよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願いします。

【卒業年】
平成14年

【専門領域】
脊椎脊髄疾患

【認定医・専門等資格名】
日本整形外科学会認定専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

Yuko Sano

軽減されるIn-boreシステムが入り、患者さまに快適なMRI装置となっています。320列CTでは検出器幅が160mmとなり、心臓CTを1回転(0.275秒)で撮像することが出来るため、アーチファクトの少ない画像が得られています。地域医療連携におきましては、年間 300～350件程度のCT、MRI検査のご依頼をいただいています。今後も迅速かつ適切な診断、患者さまに優しく安全な検査を心掛け、地域医療の一翼を担えますよう尽力させていただきます。

【卒業年】
平成8年

【専門領域】
画像診断、腹部領域CT、MRI

【専門等資格名】
日本医学放射線学会放射線診断専門医、指導医
マンモグラフィ検診精度管理委員会
マンモグラフィ読影認定医 A判定

Kaori Yamada

導入し、最高クラスの画像を日常臨床にて提供しております。Cutting edgeな美しい画像と、的確でわかりやすい画像診断レポートの作成をモットーとし、地域の診療のお役に立てるようこれからも精進していく所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【卒業年】
平成15年

【専門領域】
画像診断、泌尿生殖器領域CT、MRI

【認定医・専門等資格名】
日本医学放射線学会診断専門医、指導医
日本核医学会専門医
日本核医学会PET核医学認定医
検診マンモグラフィ読影認定医師AS評価

診療科のご紹介

・耳鼻咽喉科 ・歯科口腔外科

耳鼻咽喉科

部長 | 山本 聡

平素は格別の御厚情を賜り誠に有難うございます。耳鼻咽喉科部長を拝命し4年目になります。ご紹介いただきます患者様の安心安全を心がけ、信頼される地域の基幹病院・耳鼻咽喉科を目指して医局員と看護師、検査技師、医師事務が心を合わせて研鑽を続けています。

新型コロナウイルス感染対策は最重点課題と考え、これまでワンルームで見晴らしのよかった診察室を個室化し、隣り合わせの診察

台の間にスティールパーティションを設けました。診察台ユニットやチェアー、換気扇や紫外線殺菌装置を新設していただきました。患者様同士の飛沫や接触感染を予防し、十分な換気や消毒など感染対策を怠らないように進めて参ります。室内は落ち着きを感じる木目調の壁紙や床板にしています。感染対策ばかりで心が疲れてしまわないように少しでも癒しの効果を期待しています。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

【卒業年】
平成6年

【専門領域】
側頭骨外科学、神経耳科学

【認定医・専門等資格名】
日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医・専門研修指導医、
日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医、
京都府立医科大学臨床教授

耳鼻咽喉科

副部長 | 為野 仁輔

私の専門とする頭頸部癌診療においても、この一年間は例外に漏れずコロナウイルス感染対策に注力する日々でした。特に治療の中心である手術において常に感染拡大の予防が大前提となりました。上気道の手術を行う立場から手術目的の入院患者様全員のコロナスクリーニングを他科に率先して行っています。病院全体が一丸となって感染対策に着手することで患者様が安心して受診いただける体制がようやく整いつつあると感じております。

頭頸部癌はどれだけ早期に発見し治療開始できるかによって大きく予後が変わってきます。感染を懸念したため受診が遅れ腫瘍が進行してしまう例も見られます。一方で地域の先生方のご尽力により感染リスクがあるにも関わらず早期の段階でご紹介いただいたおかげで根治に至れるケースも多くあり、改めてご紹介いただくありがたさを噛み締めております。まだまだ至らぬ点もあるかと存じますが、今後とも宜しく願い申し上げます。

【卒業年】
平成14年

【専門領域】
頭頸部腫瘍

【認定医・専門等資格名】
日本耳鼻咽喉科学会
認定専門医・指導医、
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医、
日本頭頸部外科学会
頭頸部がん専門医・指導医

耳鼻咽喉科
診察担当表

	月	火	水	木	金
新患	山本	毛利	為野		森
再診 (午前)	為野・森・岡野	森・ 大学医員	山本・毛利・高木 (予約のみ)		毛利 担当医
午後 (腫瘍外来)	為野 (cancer clinic)		山本 (難聴)		

【診療スタッフ 敬称略】

写真左より、
毛利 宏明、為野 仁輔、
山本 聡、森 大地、
岡野 圭一郎

Introduction of clinical department

【診療スタッフ 敬称略】

後列左より、

野中 頼子、植西 俊裕、前野 春菜、友松 瑞貴

前列左より、

柿本 昌美、堀 智範、名倉 真未

歯科口腔外科

部長 | 堀 智範

平素より病診連携にご協力いただき、誠に有難うございます。
歯科口腔外科では、歯科医師3名、研修歯科医師1名、歯科衛生士2名、事務作業補助者1名の計7名で診療に当たっております。

診療内容は、悪性腫瘍を除く口腔外科一般、全身の疾患を持つ患者さんの歯科処置が主であり、一般歯科診療につきましては開業歯科医院への受診を勧めております。2012年に周術期口腔機能管理が新設されてからは、周術期口腔機能管理が大きなウェイトを占めるようになってきました。

紹介率は毎月30%を超えており、諸先生方のご協力の賜物と大変感謝しております。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

周術期口腔機能管理の増加に伴い、初診当日の埋伏智歯抜歯を含む外科処置は控えさせていただいております。諸先生方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

歯科口腔外科では今後とも地域医療に貢献できるよう、チーム一丸となって日々精進してまいります。

【卒業年】
昭和62年

【専門領域】
有病者の歯科治療、インプラント、
ペインクリニック

【認定医・専門等資格名】
歯科麻酔認定医

歯科口腔外科

副部長 | 植西 俊裕

歯科口腔外科の植西俊裕と申します。

この新型コロナウイルスが猛烈を奮っている中、諸先生方も日々、感染対策されながら診療されていると思います。当科は口腔内を主に扱う為、非常に感染リスクが高い中、診療にあたらなければなりません。以前であれば、普通抜歯や埋伏抜歯でも病診予約をして頂いた患者様は出来るだけ当日抜歯をおこなってきましたが、昨年より後日に行わさせて頂いております。ご迷惑をお掛けして申し訳御座いません。

診療については、従来通り埋伏抜歯や普通抜歯、嚢胞性病変、良性腫瘍、外傷による骨折、顎関節症等の口腔外科症例を中心にっております。また、骨吸収を抑制する薬剤に関連して

生じる顎骨の壊死（ARONJ）の患者様も年々増加しておりますので諸先生方も怪しいと思われたら御紹介して下さい。

医科歯科連携としては、当院で行われる全身麻酔手術前、化学療法前、放射線治療前には周術期口腔ケアを積極的に介入して、誤嚥性肺炎、口腔粘膜炎等の合併症予防に努めております。当科では一般歯科治療は積極的に行っておりませんので、う蝕治療、歯周病治療、入れ歯治療は出来る限りかかりつけ歯科を持って頂き、治療して頂ければと考えております。

本年度4月より、新しく名倉先生、柿本先生を迎えて堀部長を中心に4人体制で頑張っていきますので宜しくお願いします。

【卒業年】
平成14年

【専門領域】
口腔外科、歯周病

歯科口腔外科
診察担当表

	月	火	水	木	金
新患	堀	植西	植西	堀	名倉
予約	植西・名倉	堀	植西・名倉	堀・名倉	手術日



専門看護師・認定看護師の

お仕事紹介

田中 結美

がん看護専門看護師

専門看護師について皆様ご存じでしょうか？専門看護師は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供し、保健医療福祉の発展に貢献し、併せて看護学の向上をはかることを目的とした日本看護協会の認定制度です。がん看護専門看護師には、実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の6つの役割を通して、がん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者さんやその家族に対してQOL（生活の質）の視点に立った水準の高い看護を提供することが求められています。

私は2006年にがん看護専門看護師の認定を受け、緩和ケア

チームやがん看護外来をフィールドとし、組織横断的な活動をさせていただいています。最近ではがんゲノム医療を受ける患者さんの支援にも力を入れています。

ゲノム医療など、がん医療の進歩によりがんと共に生きる時間が長くなってきています。その一方で、患者さんご家族にとっては限られた時間の中で重要な意思決定を迫られる場面が多い現状があります。医師からの説明内容を十分に理解した上でご自身の価値観と照らし合わせ納得した選択ができ、その人らしい人生を全うできるようなケアを心がけています。



立石 るか

がん看護専門看護師

私は今まで、内科や外科などの病棟で経験を積んだ後、ホスピスや緩和ケア病棟に勤めてきました。京都第一赤十字病院にも緩和ケア病棟が開設することとなり、私は当院で働くこととなりました。当院に緩和ケア病棟が開設することで、人の誕生から最期まで安心できる医療が提供されるようになります。

緩和ケアというと“治療ができなくなった人がうけるもの”“終末期の人のケア”と思われる方もいるかもしれませんが。しかし、2人に1人ががんに罹患するといわれている今、「がんと診断された時から緩和ケア」が謳われています。がんと共に生き

るため、患者さんやご家族が辛い時に「辛い」と言えることが緩和ケアの一歩なのではないでしょうか。身体の辛さや気持ちの辛さ、今までできていたことができなくなってしまう辛さ、病気の進行とともに自身の役割が変化してしまう辛さ、未来への希望を失ってしまう辛さ等、患者さん・ご家族の辛さに寄り添い、少しでも軽減できるお手伝いをしたいと考えています。

患者さん・ご家族が、その人・その家族らしく尊厳を持って生きることができるよう多職種のチームの一員として働かせてもらっています。



大畑 茂子

老人看護専門看護師

超高齢社会の到来により、90歳台の高齢者が侵襲の大きい手術を受けるのも珍しくなく、暦年齢だけでは治療方針や治療内容を判断することは難しくなっていると実感しています。高齢者の心身の状態や生活史を紐解いて価値観を共有し、本人が望む日々の暮らしが実現できるよう、医療や看護を提供していきたいと考えています。

院内では、認知症ケアチーム、精神科リエゾンチームの専任看護師として組織横断的に活動しています。病棟看護師、リハビリスタッフらと共に、認知症やせん妄を呈した患者さんが、混乱することなく安心して治療や検査、看護ケアを受けられるように、環境調整やコミュニケーション、ケア方法などを検討しています。

高齢者は入院によりADL低下や認知機能の低下、誤嚥性肺炎など合併症を起こし、元の生活に戻れなくなる場合も少なくありません。本人、ご家族、在宅支援者、施設職員の皆様と、高齢者の意思を尊重し、その人にとっての最善の医療や療養場所を検討していきたいと考えております。

最後に、治療や看護を受ける上で高齢者の権利や尊厳は損なわれやすい状況があります。日本看護倫理学会の「医療や看護を受ける高齢者の尊厳を守るためのガイドライン」では、具体的な行動指針が示されています。すべての医療者にこのガイドラインが周知され、遵守できるように活動していきたいと考えております。



藤本 泰子

特定看護師

私は2014年に糖尿病重症化予防「フットケア」研修を受講し、フットケア外来に携わってきました。その経験から特定行為研修を薦められましたが、ジェネラリストでもあり、しばらくは受講するか悩んでいました。しかし、知識や技術を向上することができれば、もっと患者さんに自信を持って関わるができるのではないかと考え、2019年度日本赤十字社特定行為研修の「創傷管理関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」2

区分の研修を受講、修了しました。

そして、2020年4月より特定行為研修修了者として活動をしています。現在は、週2回の終日活動日とワンポイントの活動時間を利用して、主に循環器内科・整形外科・皮膚科・救急科の医師と共に「創傷または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」と「創傷に対する陰圧閉鎖療法」の実践や褥瘡回診・NST回診に参加しています。

活動を開始してからの1年は、多職種との連携やチームの一員として活動することに悩むことの多い毎日でした。しかし、指導医や認定看護師からの指導や助言、そして日々患者さんと関わらせて頂いた経験により、多くのことを学べた1年でもありました。また、患者さんから「ねえ、藤本さん。ちょっとこの傷みてくれへん？」と、気軽に声をかけて頂けるようになったことも、とても嬉しく感じています。今後も、目の前の患者さんと誠実に向き合い、研修で学んだ臨床推論などの知識を活用し、創傷と栄養を絡めた「看護師だからできるケア・処置」を実践できるように努力していきたいと思います。

